



区連会だより

わがまち ほどがや



第3号

平成25年3月31日発行

発行：保土ヶ谷区連合町内会長連絡会

地域で様々な“減災”の取組が広がっています!!

地域での啓発活動

日頃の備えについて

①家族で話し合っていますか?

大地震のとき、家族が落ち着いて行動できるよう、家族間での連絡方法や最寄りの避難場所など事前に対応を話し合っておきましょう。

②家の耐震化や家具の転倒防止していますか? 家の危険箇所をチェックしていますか?

家具の転倒防止は減災行動の基本です。固定することはもちろんのこと、配置についても考えましょう。

③備蓄品を準備していますか?

3日分を目安に、準備しましょう。



▲家具転倒防止器具取付研修会の様子 (H25.3.9 於:区役所)



地域での防災訓練

小学校などの地域防災拠点や自治会町内会単位で防災訓練を実施し、それぞれの地域での課題を検証し、取り組んでいます。

●和田西部町内会「防災フェア」の開催

24年7月に防災訓練よりも身近な形で、防災を意識してもらうため「防災フェア」を開催しました。

AEDの取り扱い講習や防災備蓄庫の見学、炊き出し、サバイバル飯炊き体験、子ども防災クイズなど、災害時の対応を楽しく学べるイベントとして、多くの人で賑わいました。



自助共助の取組

地域での支えあう体制づくり

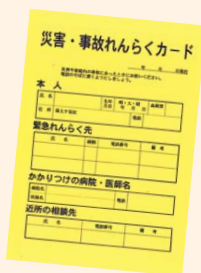
1 災害時要援護者の名簿作成

自治会町内会が、一人暮らしの高齢者など災害時に支援が必要な人の名簿を作成し、いざという時の支援体制を整えています。

●くぬぎ台団地自治会の取組み

「自主防災委員会」を組織し、70歳以上の一人暮らし高齢者を訪問する「防災訪問」を平成15年から実施しています。

毎年1回、自治会役員のほか、民生委員や家庭防災員など30人ほどのメンバーが分担して、約100人の一人暮らし高齢者を戸別訪問し、聞き取り調査を行なっています。その際に「災害・事故れんらくカード」を作成し、本人と自治会が相互に保管することになっています。それにより、災害時等緊急時には、自治会から親族などへの連絡体制も可能となっています。



2 救命カプセルの作成

救急隊などが駆けつけた際、すばやく本人の情報を確認できるように、持病や服用中の薬、かかりつけ医、緊急連絡先(家族・家族以外)などを記載する「救命情報シート」などを入れた「救命情報カプセル」を冷蔵庫に保管する取組みが区内で広がっています。

地区社会福祉協議会や自治会町内会で作成され、様々な地域で普及が図られています。



「20万区民の減災運動」

保土ヶ谷区では、区連会をはじめとした市民団体、民間企業、行政機関など33団体で構成される、「保土ヶ谷区災害対策連絡協議会」が推進母体となり、「20万区民の自助・共助による減災運動」を進め、家庭と地域における自助・共助の取り組みを促進します。

この運動では、地域の行事や会合、防災訓練などにおいて防災・減災の基本的な取組内容を紹介し、家庭と地域での実践につなげていきます。



▲境木小 訓練の様子



▲上菅田小 訓練の様子

いっとき避難場所

難します。

自治会町内会に於いて、場所を選定しています。

いっとき避難場所とは

- ・災害時に近所の人たちが集まって様子を見る場所
- ・災害時に集団で避難するための身近な集合場所

平成25年3月4日(月)に「平成24年度自治会町内会長感謝会」が開催されました。

本年度から、会場が「ほどがや地区センター」から「モンテファーレ」に変わっての開催となり、林市長はじめ行政関係者と区内の自治会町内会長出席のもと盛大に行なわれました。

当日は、市長及び区長から永年在職者として23名の方に表彰状(感謝状)の授与がありました。

広域避難場所

地震による火災が多発し延焼拡大した場合、熱や煙から生命・身体を守るため一時的に避難する場所です。

自治会町内会等、地域が主体となって構成される「地域防災拠点管理運営委員会」により運営されます。

地域防災拠点(避難所)

家屋の倒壊などにより自宅に戻れない場合に、避難生活を送る場所です。

(あらかじめ指定された市立の小・中学校)

保土ヶ谷区では、「地域防災拠点」を補完する任意の避難所として、「助け合い(中間的)避難場所」を地域の共助として整備することを検討しています。

発災時に、住家に留まることに不安を感じている住民や、地理的、身体的要因等で地域防災拠点までの避難を円滑に行えない高齢者等の住民に対し、1週間程度生活するための施設で、運営は自治会町内会等が行います。また、対象施設は、自治会館や幼稚園等民間施設等を候補とします。

今後、各自治会で、必要性、候補施設など更なる検討を進めていきます。

区連会会長であり、中央地区の会長でもある橋本会長にお話を伺いました。

「感謝会」では、永年在職者として市長から表彰されました。

30代の頃に、町内のお祭りを企画するなどした縁もあり、退職後に当時の町内会長からの誘いで、2年間副会長を務め、昭和58年から会長職を引き受けていて、今年で30年になりました。



川辺町町内会
(中央地区)

会長 橋本 淳

活動について一言

本当に多くの人から助けられました。昔から延齡草(えんれいそう)という植物が好きなのですが、ユリ科の多年草で開花まで18年ほどかかります。私は30年やってもまだ、地域の皆に何も還元出来ていないので、何か恩返し出来ることはないかと考えているところです。